

令和7年度 学校自己評価中間報告書

重点目標		具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果・課題)及び後期の扱い	評価
1	授業実践力の向上 (教科指導の充実)	G I G A研修とともに授業検討や実践、整理会などを通してICTを効果的に活用した授業作りに取り組んでいく。また、実践報告書を各教員作成し授業実践力の向上につなげる。	教務課 (研究)	授業の目標や目指す児童生徒の姿に焦点を当てたICTの活用が「できている」「ややできている」と答えた教員の割合が、 A：80%以上である。 B：70%以上である。 C：60%以上である。 D：60%未満である。	授業の目標や目指す児童生徒の姿に焦点を当てたICTの活用が「できている」「ややできている」と答えた教員の割合が、93%である。	毎月実施しているG I G A研修に参加することで、授業でのICTの活用の仕方や授業作りについて、教員の知識や技能が上がってきていることが考えられる。また、学校研究として目指す児童生徒の姿や目標の達成のためのICTの活用という点でそれぞれが工夫をしながら少しずつ活用できるようになってきた。今後は、実践報告書の作成によって取り組みをフィードバックしたり共有したりしていくことが必要である。	A
2	地域社会との連携	地域の方々や交流先と一緒に活動するごとに、取組の目的についてのアンケートを配布し、評価してもらおうと同時に、要望も聞き、次の活動につなげていく。	全学部	交流相手からのすべてのアンケートにより、活動が「とても満足した」「満足した」と答えた割合が A：80%以上である。 B：70%以上である。 C：60%以上である。 D：60%未満である。	交流相手からのアンケートで、「とても満足した」「満足した」と答えた割合が、100%である。	11月上旬現在で、地域の方々や居住地交流を行った回数が3回であり、毎回、アンケートを取ることができた。交流を行った学部は小学部だけだったが、地域の方々の声は、「楽しかった」「また、一緒にしたい」という好意的なものだった。今後は、中学部、高等部が地域の方々や保育園との交流を行う予定であり、引き続き活動が有意義なものになるよう取り組んでいきたい。	A
3	安心・安全な学校づくり	年2回の避難訓練(火災、地震・津波)と分校版シェイクアウトを引き続き実施する。分校版シェイクアウトでは告知なく実施し、児童生徒が適切な行動をとれることを目指す。	生活支援課(生徒指導)	避難動作を自主的に行い、教師の指示を聞いて落ち着いて行動できた児童生徒の割合が A：80%以上である。 B：70%以上である。 C：60%以上である。 D：60%未満である。	県下一斉シェイクアウトと分校版シェイクアウトの2度の避難訓練を実施し、児童生徒の様子を教員がチェックシートに記入した。その中で、「静かに落ち着いて避難行動がとれる」と回答した割合が、83%である。	2度目の分校版シェイクアウトにおいて、一時避難にあたる「すばやく避難行動がとれる」や「動かずに避難姿勢を維持できる」など1回目の避難訓練に比べて評価があがった児童生徒の数は増えた。今後は、一時避難だけでなく、二次避難(集団行動しながら避難場所への移動)も合わせて行っていきたい。	A
		新校舎での適切な避難方法や避難場所の過ごし方などについて防災教育の時間を設け、日頃から児童生徒が取り組めることがあるか考える授業を行う。	各学部の授業担当者	防災教育に関する授業を受け理解できた児童生徒の割合が A：80%以上である。 B：70%以上である。 C：60%以上である。 D：60%未満である。	授業を受けて、理解できたと回答した生徒の割合が、100%である。	災害によって引き起こされる重大事態と日ごろからの備えの重要性について考える場を設けた。その上で、防災リュックにある食料や飲料の賞味期限を記録した。後期も引き続き、防災の意識を高められるような働きかけを学校全体で行っていきたい。	A

		教育ウィークに合わせて座談会を開き、震災直後、震災後の状況などについて話し合いこれからの対応について参考にしてもらう。	総務課	座談会の内容が、満足いくものであったという割合が A：80%以上である。 B：70%以上である。 C：60%以上である。 D：60%未満である。	座談会の内容が、満足したと答えた方の割合が100%であった。	当日は5家族の参加があり、スクールカウンセラーの先生を講師として招き、震災後の状況や日常の子育てのことについて様々なことを聞いていただいた。	A
--	--	---	-----	--	--------------------------------	--	---